



Season 2026-27 subscription series *Booklet*

TOKYO PHILHARMONIC

Jan. 2026



Chie H.



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
ここ東京で華やかに色づくオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY **Rakuten Mobile** **MARUHAN** **LOTTE** **JP BANK** ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第1026回サントリー定期シリーズ

1月23日(金) 19:00開演 サントリーホール

第1027回オーチャード定期演奏会

1月25日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

1/23

1/25

指揮：渡邊一正 ※当初の発表から変更となっております。

ピアノ：五十嵐薫子*

コンサートマスター：三浦章宏

レスピーギ：

ピアノと管弦楽のためのトゥッカータ* (約25分)

〈日本・イタリア外交関係樹立160周年／レスピーギ没後90年〉

— 休憩(約15分) —

マーラー：

交響曲第1番 二長調『巨人』(約55分)

- I. 緩やかにひきずるように — 常にとても快適に
- II. 力強い動きで、しかし速すぎず
- III. 厳粛かつ荘重に、ひきずらずに
- IV. 嵐のように動いて

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(1/25)



♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。

♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフのご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。

♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。終演後のカーテンコールも、マナーを守ってお楽しみください。

出演者プロフィール



©Tomoko Hidaki

指揮

渡邊 一正

Kazumasa Watanabe, conductor

1991年東京フィルハーモニー交響楽団を指揮してデビュー。1992年、東京フィルの指揮研究員として入団後、1994年に副指揮者、1996年より2015年3月まで指揮者、2015年4月より2021年5月までレジデント・コンダクターを務める。また1995年～2002年には広島交響楽団正指揮者も歴任。これまでNHK交響楽団の定期演奏会を始め、日本国内の主要プロ・オーケストラへ定期的に客演し、その音楽性と指揮に対する信任を得ている。2020年6月、コロナ禍において東京フィルが開催した最初の定期演奏会に出演し、絶賛を博した。

オペラでは新国立劇場でマスカーニ歌劇『友人フリッツ』、バレエでも同劇場バレエ団『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』などを指揮し、2006年『白鳥の湖』新演出の指揮でも大成功を収めた。2022年1月には谷桃子バレエ団『ジゼル』公演を、急遽公演直前に代役を務め好評を博した。

またサンクトペテルブルク交響楽団の定期演奏会に客演するなど、海外でも活躍している。

ピアニストとしても8歳の時に東京交響楽団、東京フィルと協演。1987年～1989年まで渡欧し、ハンス・ライグラフ教授に師事。その後、東京フィル定期、広島響定期などで弾き振りを含むプログラムを行なうなど、ピアニストとしての才能も高く評価されている。



©Seiji Okumiya

ピアノ

五十嵐 薫子

Kaoruko Igarashi, piano

桐朋学園大学及び大学院卒業。2022年第76回ジュネーヴ国際音楽コンクールにて、第3位及びRose Marie Huguenin Prizeを受賞。6歳より桐朋「子供のための音楽教室」にてピアノを始める。今泉紀子、山田富士子、村上弦一郎、横山幸雄、岡本美智子の各氏に師事。桐朋学園大学を首席で卒業し、皇居内の桃華楽堂での御前演奏会に出演。これまでに、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、広島交響楽団、ヤナーチェク・フィルハーモニー管弦楽団、KBS交響楽団と共演。NHK「クラシック倶楽部」、NHK-FM「リサイタル・パッション」、「ブラボー! オーケストラ」、ラ・フォル・ジュルネ TOKYO、宮崎国際音楽祭、いしかわ「風と緑の音楽祭」、パレルモ音楽祭に出演。2025年3月、日韓国交正常化60周年記念<KBS交響楽団&東京フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会(名誉音楽監督・指揮:チョン・ミョンフン)>にて、東京とソウルで「モーツァルト:2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K365」を演奏し各所より絶賛の声が寄せられた。徳永二男、ワディム・レーピン、工藤重典などの各氏と共演を重ねるなど、室内楽にも精力的に取り組んでいる。

公式 X @KaorukoIgarashi

楽 曲 紹 介

解説=寺西基之

本日のプログラムで目を引くのは、前半に実演ではめったに聴けないレスピーギによるピアノと管弦楽のための「トッカータ」が取り上げられることだろう。とかく等閑視されがちな近代イタリアの管弦楽作品の魅力を日本の聴衆にアピールすべく、今回の演奏会を振るはずだった首席指揮者バッティストーニが選曲したもので、残念ながら彼自身は降板となってしまったものの、渡邊一正が変更なしにこの作品を紹介してくれることとなった。華麗な色彩感で知られる「ローマ三部作」とはひと味異なったレスピーギの別の側面が現れた作品だけに、この作曲家の再認識につながる貴重な機会となるだろう。ピアニストには高度な技巧が求められる曲でもあり、ソリストに抜擢された若きヴィルトゥオーゾの五十嵐薫子の手腕がおおいに注目される。後半はおなじみのマーラーの交響曲第1番。多くの指揮者のもとでこの作品の名演を残してきた東京フィルが今回どのような演奏を聴かせてくれるのか、シーズン開幕に相応しい公演となることを期待したい。

レスピーギ ピアノと管弦楽のためのトッカータ

イタリア近代の作曲家オットリーノ・レスピーギ(1879-1936)は、ドビュッシーなどから影響を受けた近代的な和声や恩師リムスキー=コルサコフから受け継いだ色彩豊かな管弦楽法を取り入れてイタリアの近代音楽の発展を促す一方で、イタリアの過去の音楽や文化を尊重して作品に反映させるなど、独自の作風を追求した。

本日演奏される「トッカータ」は1928年に書かれたピアノと管弦楽のための協奏曲作品。トッカータは急速な音階や分散和音の動きによった鍵盤曲のジャンルで、イタリアではバロック時代にメールロやフレスコバルデイによって大きな発展を見せたが、レスピーギはこうしたトッカータの伝統をフィナーレ部分に生かし、その他にも様々なバロック的要素を取り入れながら、後期ロマン派の書法や近代的な和声を基調に、19世紀のヴィルトゥオーゾ協奏曲にも連なる特質を持つこの作品を作り上げた。初演は1928年11月28日カーネギーホールにおいて作曲者自身のピアノ、ヴァレム・メンゲルベルク指揮ニューヨーク・フィルの演奏でなされている。

主調は二短調、全体は大きく3部分に分けられ、連続して演奏される。第1部

(グラージュ)はピアノとオーケストラが奏でる厳粛な主題(バロックのフランス風序曲を思わせる複付点リズムが特徴)とピアノのソロ部分との交代で開始され、やがてピアノと独奏チェロの対話や叙情的なエピソードを挟んだ後、冒頭の厳粛な主題が回帰する。第2部(アンダンテ・レント)は歌謡的な部分で、ピアノが奏でる簡素な主要主題はイタリア・バロックの独奏協奏曲の緩徐楽章を思わせる。ピアノとオーボエの絡みなどを交え、幻想的な高揚もみせるが、再び最初の主題が戻ってくる。第3部(アレグロ・ヴィーヴォ)はまさにトッカータ風で、運動性に満ちた走句を奏でるピアノにオーケストラが絡みながら発展、独奏のカデンツァを挟んでさらに新たな展開を見せつつ、二長調の壮麗な終結に至る。

【作曲年代】1928年8月 【初演】1928年11月28日、ニューヨーク、カーネギーホールにて、ヴィレム・メンゲルベルク指揮ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団、作曲者自身のピアノによる
【楽器編成】フルート3、オーボエ3、ファゴット、コントラファゴット、ホルン3、弦楽5部、独奏ピアノ

マーラー 交響曲第1番 二長調『巨人』

伝統的な様式の枠を越えた破格で大規模な交響曲を生み出したことで知られるグスタフ・マーラー(1860-1911)だが、早くから指揮者としての才腕を発揮し、各地の劇場で活躍した。しかし生来の我の強さに加え、ユダヤ人という出自もあって、嫌がらせを受けたり劇場当局と衝突したりすることが多く、様々なポストを転々とする。

今日交響曲第1番として知られる作品もそうした若き日の苦闘の中で生み出された。といっても当初は交響曲ではなく交響詩として作曲されている。1889年11月20日ブダペストで彼自身の指揮で初演された際には5楽章からなる2部形式の交響詩として発表され、その後1893年の改訂稿初演(ハンブルク)の折には、“交響曲形式の交響詩「巨人」”という曲題のもと、各部・各楽章に以下のような題が付けられていた。

I『青春の日々より～花、果実、茨』:第1楽章「春、終りなし」、第2楽章「花の章」、第3楽章「順風満帆」

II『人間喜劇』:第4楽章「座礁して、カロの画風の葬送行進曲」、第5楽章「地獄から」

こうした題(このうち「巨人」「花、果実、茨」などはジャン・パウルの小説からとられたもの)とともに、マーラー自身の恋愛体験と関わりある自作の歌曲「さすらう若人の歌」や「ハンスとグレーテ」などが主題として引用されていることや、闘争から勝利へと向かう曲全体の構成、主題や展開法などの特徴から、この“交響詩”がかなり具体的な文学的内容を持っていたことは間違いない。つまり青春の恋や憧憬、指揮者活動における失意や苦闘といった自身の実体験に基づく人生観、自然観、世界観が表現されていることが見てとれるのである。

だがマーラーはさらに作品に大々的な改訂を施し、その際「巨人」という曲題も各楽章の題も取り去るとともに第2楽章(「花の章」)を削除し、全体を4楽章からなる“交響曲”として1896年ベルリンで初演する。マーラーはその後も改訂の手を入れているが、このように最終的に標題のない“交響曲”とされたにせよ、作品の土台に若き日のマーラーの哲学が表現されている“交響詩的な作品”であることは、作曲の経緯からも疑いないといえよう。

第1楽章(緩やかにひきずるように～常にとても快適に)は自然の目覚めを思わせる序奏の後、「さすらう若人の歌」第2曲の旋律を主要主題とする主部が生きて発展する。**第2楽章**(力強い動きで、しかし速すぎず)は民俗舞踏的な性格のスケルツォ。コントラバス独奏が導く俗謡のカノンで始まる**第3楽章**(厳粛かつ荘重に、ひきずらずに)は動物の葬列を描いたカロの戯画に靈感を得たもので、突然ドンチャン騒ぎに転じるなど、マーラーらしいアイロニーが込められている。対照的に中間部は「さすらう若人の歌」第4曲が引用され、夢見るような憧れの気分に満たされる。休みなく続く**第4楽章**(嵐のように動いて)は、青春の闘いを示す第1主題と憧憬に満ちた第2主題の間を揺れ動きつつ展開する劇的なフィナーレで、最後は輝かしい勝利で全曲を結ぶ。

【作曲年代】1884～1888年(1893～1896年改訂) 【初演(第1稿)】1889年11月20日、ブダペストにてマーラー自身の指揮による

【楽器編成】フルート4(2番～4番はピッコロ持ち替え)、オーボエ4(3番はイングリッシュ・ホルン持ち替え)、クラリネット4(3番はバス・クラリネットとE♭クラリネット、4番はE♭クラリネット持ち替え)、ファゴット3(3番はコントラファゴット持ち替え)、ホルン7、トランペット5、トロンボーン4、チューバ、ティンパニ2、打楽器(太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム)、ハーブ、弦楽5部

てらにしもとゆき(音楽評論)／1956年生まれ。上智大学文学部卒、成城大学大学院修士課程(西洋音楽史専攻)修了。音楽評論家として執筆活動を行う一方、(公財)東京二期会評議員、(公財)東京交響楽団監事、日本製鉄音楽賞選考委員、(公財)アフィニス文化財団理事などを務める。共訳書にグラウト／ハリスカ『新西洋音楽史』、共著に『ピアノの世界』ほか。

The 1026th Suntory Subscription Concert
Fri. Jan. 23, 2026, 19:00 at Suntory Hall

The 1027th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. Jan. 25, 2026, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Kazumasa Watanabe, conductor
 Kaoruko Igarashi, piano*

*The conductor originally
 announced has been changed.

Akihiro Miura, concertmaster

Respighi:

Toccata for piano and orchestra* (ca. 25 min)

(160th Anniversary of Japan-Italy Diplomatic Relations / 90th Anniversary of Respighi's Death)

— intermission (ca. 15 min) —

23
Jan

25
Jan

Mahler:

Symphony No. 1 in D major "Titan" (ca. 55 min)

- I. Langsam. Schleppend. "Wie ein Naturlaut" – Immer sehr gemächlich (Slow. Dragging. "Like a sound of nature." – Always very easygoing)
- II. Kräftig bewegt, doch nicht zu schnell (With vigorous movement, yet not too fast) Trio: Recht gemächlich (Well moderated)
- III. Feierlich und gemessen, ohne zu schleppen (Solemn and measured without dragging)
- IV. Stürmisch bewegt (Stormily)

Presented by Tokyo Philharmonic
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
 Japan Arts Council
 In Association with **Bunkamura** (Jan. 25)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile



Kazumasa Watanabe,
conductor

©Tomoko Hidaki

Born in Tokyo, Kazumasa Watanabe made his conducting debut with the Tokyo Philharmonic in 1991 and served as its Resident Conductor from April 2015 to May 2021. He was also Principal Conductor of the Hiroshima Symphony Orchestra from 1995 to 2002. Throughout his career, he has appeared regularly with Japan's leading professional orchestras including the NHK Symphony Orchestra, earning wide respect and trust for his refined musical insight and conducting abilities. In the field of opera, he has conducted Mascagni's *L'amico Fritz* at the New National Theatre, Tokyo (NNTT). His ballet repertoire includes major productions with the NNTT Ballet such as *Swan Lake*, *The Nutcracker*, and *Don Quixote*. Notably, his conducting for the new production of *Swan Lake* in 2006 was met with outstanding acclaim. His activities also include guest appearances with orchestras abroad including the St. Petersburg Symphony Orchestra.

Watanabe is also an accomplished pianist. He performed with the Tokyo Symphony Orchestra and the Tokyo Philharmonic at the age of eight. From 1987 to 1989, he pursued advanced studies in Europe under Professor Hans Leygraf. His pianistic artistry is highly esteemed, as demonstrated in performances with the Tokyo Philharmonic and the Hiroshima Symphony Orchestra, where he has both conducted and performed as a soloist.

23
Jan

25
Jan



©Seiji Okumiya

Kaoruko Igarashi, piano

23
Jan25
Jan

Japanese pianist Kaoruko Igarashi is the winner of the 3rd Prize and the Rose-Marie Huguenin Prize of the 76th Geneva International Music Competition held in 2022 in Switzerland. She started to take piano lessons at the Toho Gakuen Music School for Children, Tokyo at age 6. Later as a student of the Toho Gakuen College Music Department, she won the 3rd Prize and the Miyake Prize at the Music Competition of Japan. When she graduated from the Toho Gakuen College as a top student, she performed at the Toka Gakudo auditorium inside the Imperial Palace in the presence of the Imperial Family members. As a soloist, Kaoruko has performed with the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, Tokyo Philharmonic, Kansai Philharmonic Orchestra, Orchestra Ensemble Kanazawa, Hiroshima Symphony Orchestra, Janáček Philharmonic Orchestra, and KBS Symphony Orchestra.

She has been trained by Noriko Imaizumi, Fujiko Yamada, Genichiro Murakami, Yukio Yokoyama and Michiko Okamoto. She has given concerts both inside and outside Japan participating in festivals such as the Palermo Music Festival in Italy, La Folle Journée TOKYO, and Miyazaki International Music Festival. A passionate chamber player as well, Kaoruko has performed alongside Vadim Repin, Tsugio Tokunaga, Shigenori Kudo and others.

Official X Account: [@KaorukoIgarashi](#)

Program Notes

Text by Robert Markow

Respighi: Toccata for piano and orchestra

Respighi's reputation today rests first and foremost on his trilogy of symphonic evocations of Rome: *The Fountains of Rome* (1916), *The Pines of Rome* (1924), and *Feste romane* (1928), all bursting with brilliant effects, resplendent orchestration, and intoxicating rhythms. Many other works by this remarkably diverse composer are deliberate evocations of Medieval, Renaissance, Baroque and Classical ages, often cloaked in traditional forms like those of the sonata, theme and variations, and suite. Respighi's keen interest in music of bygone eras led to such works as *The Birds* (old harpsichord pieces) and *Ancient Airs and Dances* (16th- and 17th-century lute music). The Toccata on this program too is representative of the composer's fascination for the past.

The word "toccata" is Italian for "touch." Musical toccatas were popular during the Baroque period (17th and early 18th centuries), and derived their name from "touch" pieces as opposed to "cantatas" (sung pieces). Mostly they were virtuoso keyboard compositions featuring elaborate passage work, rapid scales, flourishes, and an air of improvisation. Respighi revived the genre in his Toccata, first heard in the course of the composer's third American tour in 1928. Willem Mengelberg conducted the New York Philharmonic in Carnegie Hall on November 28 with the composer as soloist. Commentator Cris Posslac wrote that "from the opening pages, it is clear that this extensive work is intended as an homage to the old masters of the 16th and 17th centuries. However, Respighi does not lose himself in neo-Baroque imitations. Rather, his Toccata appears like a distant mirror, reflecting the works of Frescobaldi and Vivaldi with the resources of the present-day orchestra and contemporary harmony – as if the ancient spirit had been cast in a vessel whose material and form derive from modern times."

The 23-minute work, firmly grounded in the key of D minor aside from a few brief exceptions, is laid out as a single continuous movement in two large parts. It opens with a ponderous, stately subject for full orchestra and

23
Jan

25
Jan

piano together, set to the much-used, so-called dotted rhythm common in the Baroque period (a steady succession of chords in the pattern of long-short-long-short). Then unfolds an extended series of episodes of mostly sedate character for soloist and orchestra in dialogue, with the piano contributing improvisatory-style interludes. Midway through, the opening dotted rhythm material returns. Finally, at about two-thirds of way through the work, the toccata material arrives as rapid sixteenth notes in the piano. The writing for both soloist and orchestra here is brilliant, at times almost virtuosic. The Toccata ends in the bright colors of D major.

OTTORINO RESPIGHI: Born in Bologna, July 9, 1879; died in Rome, April 18, 1936

Work composed: August 1928 **World premiere:** November 28, 1928, at Carnegie Hall in New York, by New York Philharmonic conducted by Willem Mengelberg with the composer at the piano

Instrumentation: 3 flutes, 3 oboes, bassoon, contrabassoon, 3 horns, strings, solo piano

23
Jan25
Jan

Mahler: Symphony No. 1 in D major "Titan"

With the exception of Schumann, Brahms, and possibly Sibelius, there is probably no other composer than Gustav Mahler whose First Symphony represents such a towering achievement in purely symphonic music. (Berlioz' *Symphonie fantastique* was out-and-out program music.) But whereas Brahms was 43 when his First Symphony was completed, and Sibelius was well into his thirties, Mahler was just 28 when he finished his. The gigantic orchestral fresco was begun in 1884 and completed four years later. Mahler subtitled the work "Titan," after a novel by Jean Paul. The first performance took place in Budapest on November 20, 1889 with the composer conducting. In 1896, Mahler eliminated the so-called "Blumine" (Flowers) movement, which did not resurface until 1959.

Among the innovations one can point to in this symphony are the largest assemblage of orchestral musicians hitherto required in a symphony, and the incorporation of café, pop, and gypsy music into the third movement.

The evocation of nature in a symphony had been realized before (notably in Beethoven's *Pastoral* Symphony and in Berlioz' *Symphonie fantastique*), but nowhere else are the very *sounds* of nature so pervasively and integrally bound up with the symphonic thought than in the first movement of Mahler's First. The opening moments of the work are unforgettable – that sustained, distant sound of strings spread across a six-octave range vividly suggests the mystery and peace of the night into which are interjected cuckoo calls, far-off fanfares and fragments of still-unformed melodies. Mahler described the passage as depicting the awakening of nature from its long winter sleep. The mood of the lengthy slow introduction is finally dispelled by the sprightly theme of *Ging heut' morgen über's Feld*, (one of the *Songs of a Wayfarer*, first heard in the cellos), followed by another lusty, outdoorsy theme. The music grows in fervor and intensity, culminating in a mighty outburst from the entire orchestra. The release of enormous, pent-up energy is crowned by three great whoops from the horn section, and the movement continues on its merry way to its ultimate conclusion.

The robust scherzo movement is notable for its heavy rhythmic impulses derived from the *Ländler*, a rural Austrian dance. Special effects here include the use of the woodwind section en masse (often up to 12 players) in featured roles, breathtaking fanfares from the horns and trumpets, and signals from the “stopped” horns with their bells raised (“stopped” here meaning the players' right hands are pushed deep into the bells, choking off the sound). A charming Trio, introduced by a poetic horn call, provides gentle contrast.

The third movement opens with a sinister, minor-key variant of the popular French folksong “Frère Jacques” (“Bruder Martin” in German-speaking lands). The original title of “Funeral March” refers to Mahler's parodistic portrayal in sound of a mock funeral procession, depicted in a book of Austrian fairy-tales. Beasts of the forest accompany a dead woodsman's coffin to his grave. The use of a double bass instead of a cello to begin the “Frère Jacques” tune adds a touch of the grotesque. The tune is used as a canon or round, with additional instruments taking up the tune in turn (bassoon, cellos, tuba, etc.) without waiting for the previous one to finish.

After this material has run its course we hear a new, sentimental theme in the oboes, this one also bearing a counter-theme, now in the trumpets.

23
Jan25
Jan

Suddenly the sounds of a country fair intrude, music of a gypsy band with its corny melodies and relentless “um-pah” accompaniment. And then, as if from another world, Mahler offers an interlude of quiet repose – almost a dream sequence – in music of sublime beauty and gossamer textures. Eventually the mournful “Frère Jacques” music returns and the movement slowly recedes into the furthest reaches of audibility.

Anyone who has dozed off to the third movement’s funereal tread will be instantly and rudely shocked back to his senses with the hellish outburst that opens the finale, one of the most frightening passages in all music. To Mahler, that opening cymbal crash followed by the roar of drums represented a flash of lightning emitted from a thunder cloud. Strings swirl and rage, woodwinds in their highest registers scream in anguish, brass proclaim terrifying fanfares, and percussion evoke the din of battle and cataclysmic conflicts.

When the torrent of notes finally subsides, strings sing a consoling, infinitely tender and yearning song. The violent conflicts return, but this time they result in heroic proclamations from the brass. However, victory and fulfillment are not quite yet achieved. In another long, generally quiet passage, the music slowly gathers momentum, ultimately reaching a towering climax for which Mahler instructs the entire horn section to stand while it delivers fanfares from within an orchestra gleaming in a thousand dazzling, spectacular colors.

GUSTAV MAHLER: Born in Kalischt, Bohemia, July 7, 1860; died in Vienna, May 18, 1911

Work composed: 1884-1888 (revised 1893-1896) **World premiere (first version):** November 20, 1889 in Budapest conducted by the composer

Instrumentation: 4 flutes (2nd, 3rd & 4th doubling on piccolo), 4 oboes (3rd doubling on English horn), 4 clarinets (3rd doubling on bass clarinet and E♭clarinet, 4th doubling on E♭clarinet) 3 bassoons (3rd doubling on contrabassoon), 7 horns, 5 trumpets, 4 trombones, tuba, timpani (2 players), percussion (bass drum, triangle, cymbals, tam-tam), harp, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

23
Jan25
Jan

Season 2026-27 Upcoming Subscription Concerts

The Tokyo Philharmonic's new season has begun. A rich array of masterpieces that capture the true essence of orchestral music awaits audiences. Please join us on our musical journey and enjoy every concert, filled with musical joy, together with the Tokyo Philharmonic.

February 2026	Wed, Feb 18, 2026, 19:00 start at Suntory Hall Mon/Holiday, Feb 23, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Conductor: Myung-Whun Chung, <i>Honorary Music Director</i> Violin: Seiji Okamoto
	Weber: Overture from opera "Der Freischütz" (The 200th anniversary of Weber's death) Bruch: Violin Concerto No. 1 Mendelssohn : Symphony No. 3 "Scottish" Single tickets available	
May 2026	Wed, May 13 2026, 19:00 start at Suntory Hall Sun, May 17 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Conductor: Andrea Battistoni, <i>Chief Conductor</i> Soprano: Yui Takahashi
	Schumann (orch. by Battistoni, world premiere): Kinderszenen (Scenes from Childhood) Mahler: Symphony No. 4 Single tickets available	
June 2026	Thu, Jun 18, 2026, 19:00 start at Suntory Hall Sun, Jun 21, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Conductor & Violin: Pinchas Zukerman
	Mozart: Overture from opera "Le nozze di Figaro" Mozart: Violin Concerto No. 3 Mozart: Symphony No. 40 Single tickets available	
July 2026	Thu, Jul 23, 2026, 19:00 start at Suntory Hall Sun, Jul 26, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall Wed, Jul 29, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	Conductor: Myung-Whun Chung, <i>Honorary Music Director</i> Carmen: Stéphanie d'Oustrac Don José: Matthew Polenzani Escamillo: Nicolas Courjal Micaëla: Slávka Zámečnicková Chorus: New National Theatre Chorus Children Chorus: Setagaya Junior Chorus, and more
	Bizet: Opera "Carmen" (concert style) Single tickets available from April on	

Ticket Prices

()=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300) C¥5,500(¥4,950)

How to join TOKYO PHIL FRIENDS ⇒ <https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>

Season 2026-27 Upcoming Subscription Concerts

August 2026	<p>Thu, Aug 6, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p>Tue/Holiday, Aug 11, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p>	<p>Conductor: Ken-Ichiro Kobayashi Violin: Keila Wakao</p>
	<p>Mendelssohn: Violin Concerto Rimsky-Korsakov: Symphonic suite "Scheherazade"</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available from April on</p>	
October 2026	<p>Thu, Oct 15, 2026, 19:00 start at Suntory Hall</p> <p>Fri, Oct 16, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p>Sun, Oct 18, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung, <i>Honorary Music Director</i> Violin: Maxim Vengerov</p>
	<p>Sibelius: Violin Concerto Beethoven: Symphony No. 7</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available from April on</p>	
November 2026	<p>Sun, Nov 15, 2026 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p> <p>Mon, Nov 16, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor: Mikhail Pletnev, <i>Special Guest Conductor</i></p>
	<p>Pletnev: 14 Mémoires musicales (2024) Tchaikovsky: Symphony No. 4</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available from April on</p>	
January 2027	<p>Thu, Jan 21, 2027, 19:00 start at Suntory Hall</p> <p>Mon, Jan 25, 2027, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor & Bassoon: Sophie Dervaux</p>
	<p>Mozart: Overture from opera "The Magic Flute" Weber: Bassoon Concerto (The 200th anniversary of Weber's death) Brahms: Symphony No. 1</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available from April on</p>	
February 2027	<p>Thu, Feb 18 2027, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p>Wed, Feb 24, 2027, 19:00 start at Suntory Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung, <i>Honorary Music Director</i> Piano: Saehyun Kim</p>
	<p>Beethoven: Piano Concerto No. 4 (The 200th anniversary of Beethoven's death) Saint-Saëns: Symphony No. 3 "Organ"</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available from April on</p>	

Inquiries about tickets

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



東京フィルだより -2026-27シーズン 今後の定期演奏会

2月定期演奏会

1回券発売中

第1028回サントリー定期シリーズ

2月18日(水) 19:00 サントリーホール

第1029回オーチャード定期演奏会

2月23日(月・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

ヴァイオリン: 岡本誠司*

ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲

〈ウェーバー没後200年〉

ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲第1番*

メンデルスゾーン／交響曲第3番『スコットランド』



5月定期演奏会

1回券発売中

第1030回サントリー定期シリーズ

5月13日(水) 19:00 サントリーホール

第1031回オーチャード定期演奏会

5月17日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

ソプラノ: 高橋 維*

シューマン(バッティストーニ編)／

『子供の情景』〈世界初演〉

マーラー／交響曲第4番*



【料金】1回券 SS席¥15,000 S席¥10,000 A席¥8,500 B席¥7,000 C席¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

2月定期演奏会の聴きどころ



名誉音楽監督チョン・ミョンフンとおくる ドイツ・ロマンの響き

文=宮下 博（音楽ジャーナリスト）

©Evgenia Gapon

2026シーズン2月定期演奏会は、昨秋の東京フィルのヨーロッパ・ツアーでも長い時間を共にし、各地で喝采を浴びた名誉音楽監督チョン・ミョンフンが登場。欧州の記憶を辿るかのようなドイツ・ロマン派プログラムをお届けします。

ヨーロッパ・ツアーを経て深まる円熟

2025年秋のヨーロッパ・ツアーではストラヴィンスキーにプロコフィエフと、20世紀のモダンな作品群で切れ味よい快演を聴かせた名誉音楽監督のチョン・ミョンフン。2026年2月の定期シリーズ／定期演奏会では、打って変わってドイツ・ロマン派の名品に挑む。

これまで東京フィルではブラームスやマーラーは何度も取り上げてきたが、ウェーバー、ブルッフ、メンデルスゾーンという並びは目新しい。しかし、そこはドイツの名門オーケストラで複数のポストを務めた百戦錬磨のマエストロのこと、引き出しの多さと深まる円熟で、いちだんと風格を増した力演に期待がふくらむ。

まずウェーバーの歌劇『魔弾の射手』序曲で、作曲家没後200年の節目を祝う。



ヨーロッパ・ツアー2025初日、ベルリンのフィルハーモニーにて ©Evgenia Gapon

世界各地の歌劇場で経験を積んだマエストロにとって、19世紀のロマンティック・オペラを確立したウェーバーの傑作歌劇は、手の内に収めたレパートリーのひとつ。東京フィルでも、スペシャル・アーティスティック・アドバイザーに就任した2001年の「オペラ・コンチェルト」シリーズで、さっそく取り上げた。

私はこの全曲演奏を会場で聴いた。要所でオーケストラを雄弁にドライブし、まるで実際の舞台を見るかのようにリアルなドラマ展開に驚かされたのを思い出す。だからマエストロが振るオペラの序曲やバレエ音楽には、全幅の信頼が置ける。いくつも現れる劇中の名旋律をどう扱って、東京フィルのDNAにもあるオペラティックな感興を盛り上げていくのか、じつに興味深い。

ミュンヘン国際音楽コンクールの覇者、岡本誠司が登場

つづくブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番も、ロマン派の薫り高い名品。マエストロと東京フィルは同じ2000年代、ジュリアン・ラクリンや榎本大進、ハン・ソジンといった名手と、この曲を共演している。今回はそれ以来、久々の実演になるという。

独奏は若手の実力者、岡本誠司。東京藝大からベルリンのハンス・アイスラー音大修士課程を経て、プロが学ぶクロンベルク・アカデミーへ進み、ドイツで研鑽を積んできた。2021年には難関で知られるミュンヘン国際音楽コ



難関ミュンヘン国際音楽コンクールを制した岡本誠司が登場 ©Yuji Ueno

ンクールで優勝を果たし、名実ともに力量が認められた。バロック時代のピリオド奏法にも通じた二刀流として、活躍が続く。

したがってドイツ・ロマン派のコンチェルトは、岡本にとってもストライク・ゾーンの真ん中。2025年も、この曲やブラームスの協奏曲を国内の他団体で共演しており、レパートリーの中核をなしている。マエストロ チョンの万全なバックを得て、本場仕込みのセンスを存分に披露してくれるのを楽しみたい。

ブルッフには『スコットランド幻想曲』というヴァイオリンと管弦楽の逸品もある。演奏会後半の交響曲との、そこはかとない連関を、マエストロは意識したのかもしれない。

緻密で陰影あふれるメンデルスゾーン『スコットランド』

そしてメインがメンデルスゾーンの交響曲第3番『スコットランド』。作曲者が現地を訪れた際に得た靈感をもとに作られた傑作だ。第1楽章冒頭の憂愁に満ちた主題を耳にするだけで、特有のほの暗いロマンティズムに引き込まれる。

マエストロは同じメンデルスゾーンの交響曲でも、明朗な第4番『イタリア』は録音があるほど取り上げる機会が多いようだが、第3番は東京フィルでは初共演となる。曲の構成は緻密で、陰影あふれるメロディーと共に各楽章の性格が作り込まれている。その真髄を、的確な棒さばきで明らかにしていこう。



早熟・夭折の天才であったメンデルスゾーン。『スコットランド』は生前に出版された最後の交響曲

参考になるのは、マエストロが名誉指揮者を務めるイタリアのスカラ・フィルと2025年9月に来日した際に披露したブラームスの交響曲第4番だ。作曲者晩年の諦観を表す後期ロマン派の名作で際立っていたのは、指揮者の年輪を示す豊かな風格と根底にある歌謡性。楽団の性質も手伝ったよく歌う演奏で、翳りの深い旋律美を手厚く引き出していた。

今回のお相手は、やはりオペラを得意とする東京フィルだけに、『スコットランド』でも同様に、目配りの利いた歌どころが全編で発揮されそう。

宮下博(みやした・ひろし)／音楽ジャーナリスト。1964年東京生まれ、長野県育ち。早稲田大学政治経済学部卒。全国紙の文化部で音楽担当を長年務め、系列の楽団事務局(公益財団法人)への出向などを経験。現在はフリーランスで活動。オーディオ評論も手がける。ミュージック・ペンクラブ・ジャパン監事。

2026-27シーズン 今後の定期演奏会

東京フィルの新しいシーズンが開幕いたしました。2月・5月・6月定期演奏会の1回券は、ただいま好評発売中です。世界を舞台に活躍するマエストロたちとの音楽の喜びに満ちたドラマティックなコンサートが、今年も皆様をお待ちしています。

2月	第1028回 2月18日(水) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ヴァイオリン: 岡本誠司*	1回券発売中
	第1029回 2月23日(月・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲(ウェーバー没後200年) ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲第1番* メンデルスゾーン／交響曲第3番『スコットランド』			
5月	第1030回 5月13日(水) 19:00 サントリーホール	指揮: アンドレア・パッティストーニ(首席指揮者) ソプラノ: 高橋 維*	1回券発売中
	第1031回 5月17日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
シューマン(パッティストーニ編)／『子供の情景』(世界初演) マーラー／交響曲第4番*			
6月	第1032回 6月18日(木) 19:00 サントリーホール	指揮・ヴァイオリン: ピンカス・ズーカerman	1回券発売中
	第1033回 6月21日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲 モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第3番 モーツァルト／交響曲第40番			
7月	第1034回 7月23日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) カルメン: ステファニー・ドゥストラック ドン・ホセ: マシュー・ポレンザーニ エスカミーリョ: ニコラ・クルジナル ミカエラ: スラフカ・ザメチニーコヴァー 合唱: 新国立劇場合唱団 児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団 ほか	1回券4月発売
	第1035回 7月26日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
	第175回 7月29日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール		
	ビゼー／歌劇『カルメン』(オペラ演奏会形式) 全3幕・日本語字幕付き原語(フランス語)上演 公演時間:約3時間(休憩含む)		

1回券料金(全席指定・税込)

SS席 ¥15,000 S席 ¥10,000(¥9,000) A席 ¥8,500(¥7,650)

B席 ¥7,000(¥6,300) C席 ¥5,500(¥4,950)

()=東京フィルフレンズ料金

8月	第176回 8月6日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: 小林研一郎 ヴァイオリン: 若尾圭良*
	第1036回 8月11日(火・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲* リムスキー=コルサコフ/交響組曲『シェエラザード』		1回券4月発売
10月	第1037回 10月15日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ヴァイオリン: マキシム・ヴェンゲローフ*
	第177回 10月16日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
	第1038回 10月18日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	
シベリウス/ヴァイオリン協奏曲* ベートーヴェン/交響曲第7番		1回券4月発売
11月	第1039回 11月15日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	指揮: ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)
	第178回 11月16日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
プレトニョフ/14の音楽的記憶(2024) チャイコフスキー/交響曲第4番		1回券4月発売
2027年 1月	第1040回 1月21日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: ファゴット: ソフィー・デルヴォー ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団およびウィーン国立歌劇場管弦楽団首席ファゴット奏者
	第179回 1月25日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
モーツァルト/歌劇『魔笛』序曲 ウェーバー/ファゴット協奏曲<ウェーバー没後200年> ブラームス/交響曲第1番		1回券4月発売
2月	第180回 2月18日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ピアノ: キム・セヒョン*
	第1041回 2月24日(水) 19:00 サントリーホール	
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第4番* <ベートーヴェン没後200年> サン=サーンス/交響曲第3番『オルガン付き』		1回券4月発売

| お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

詳細はこちら

Tel 03-5353-9522 (平日10時~18時・土日祝日休/
発売日の土日祝は10時~16時)
URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)



午後のコンサート。 2026-27シーズンラインナップ

屋下がりリラックス気分でフル・オーケストラの演奏を堪能できる、東京フィルの大人気シリーズ「午後のコンサート」。迫力満点の生演奏の合間に出演者が皆様のご質問にお答えするコーナーもあり、楽しいひとときをお過ごしいただけます。今シーズンも皆様のお越しをお待ちしております。



イラスト:ハラダチエ

渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

4月19日(日)第29回
コバケンの思い出

指揮とお話:
小林研一郎

ナビゲーター:
永井美奈子



©K.Miura

7月5日(日)第30回
旅する北欧

指揮とお話:**横山 奏**
ヴァイオリン:**吉本梨乃**
ゲスト・語り:**石丸謙二郎**



©平舘平 ©藤田啓二

9月13日(日)第31回
チェロ弾きの休日

指揮とお話:
円光寺雅彦
チェロ:**山崎伸子**



©K.Miura

12月6日(日)第32回
ジャズに魅せられて

指揮とお話:**挟間美帆**
トランペット:**黒田卓也**
※12月7日(月)平日の午後のコンサートと同演目です。



©Dave Stapleton

平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

8月12日(水)第41回
コバケンのベートーヴェン!

指揮とお話:
小林研一郎

ピアノ:**金子三勇士**
ナビゲーター:**朝岡 聡**



©K.Miura ©Seiichi Saito

10月5日(月)第42回
絢爛たる一族

指揮とお話:**角田鋼亮**
ヴァイオリン:**服部百音**
※10月4日(日)休日の午後のコンサートと同演目です。



©Makoto Kamiya ©YUJII HORI

12月7日(月)第43回
ジャズに魅せられて

指揮とお話:**挟間美帆**
トランペット:**黒田卓也**
※12月6日(日)渋谷の午後のコンサートと同演目です。



©Dave Stapleton

2027年2月10日(水)
第44回

不死鳥が舞う
指揮とお話:**出口大地**
ピアノ:**花房晴美**



©hiro.pberg berlin ©武藤章

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

9月20日(日)第108回

秋の大感謝祭
～イタリア編～

指揮とお話:三ツ橋敬子
ほか



©Earl Ross

10月4日(日)第109回

絢爛たる一族

指揮とお話:角田鋼亮
ヴァイオリン:服部百音

※10月5日(月)平日の午後のコンサートと同演目です。



©Makoto Kamiya

©YUJI HORI

11月29日(日)

第110回

オーケ
なんでもOKストラ!!

指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:清塚信也



©上野隆文

2027年3月7日(日)

第111回

春、はばたく。

指揮:
ケンショウ・ワタナベ
チェロ:鳥羽咲音



©Abigel Kralik

©Julia Wesely

午後のコンサート。 4回セット券 発売スケジュール

最優先発売 (賛助会員・定期会員) ※お電話のみ受付	優先発売 (東京フィルフレンズ会員) ※お電話のみ受付	WEB優先発売 期間中はどなたでも お求めいただけます	一般発売
2026年 1/31(土)10:00	2026年 2/7(土)10:00	2/7(土)10:00~ 2/24(火)23:59	2026年 2/25(水)10:00

◆渋谷/平日/休日 各シリーズ共通 4回セット券

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員/WEB優先発売期間	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

※1回券は4回セット券で残席がある場合のみ販売いたします。

※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。

※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。

※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。ご予約はマザーズの公式LINEよりお申し込みください。



マザーズ
公式LINE



お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時~18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時~16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



提携都市公演 事業提携10周年 長岡特別演奏会

日時 2026年2月21日(土)14:00開演(13:15開場)
会場 長岡市立劇場大ホール
出演 指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)
ヴァイオリン: 岡本誠司*
曲目 ウェーバー/歌劇『魔弾の射手』序曲
(ウェーバー没後200年)
ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第1番*
メンデルスゾーン/交響曲第3番『スコットランド』

料金(税込・全席指定) S席¥8,000 A席¥6,000

チケット問合せ (公財)長岡市芸術文化振興財団 0258-29-7715

※小・中学生には、(公財)長岡市米百俵財団による特別価格の鑑賞支援があります。

主催: (公財)長岡市芸術文化振興財団 協賛: 北越コーポレーション(株)、(株)第四北越銀行
共催: NST新潟総合テレビ



2025年11月よりオーボエ首席奏者として芳野円香(よしの・まどか)が入団いたしました。

「皆さま、はじめまして。オーボエの芳野円香です。

伝統あるオーケストラの一員として演奏できることを、とても嬉しく思っています。

シンフォニーやオペラ、バレエなど、さまざまな作品に携われる環境の中で、音楽を通してお客さまと同じ時間を共有できることを楽しみにしています。

一つひとつのリハーサルや本番を大切にしながら取り組んでまいります。精進いたしますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。」



Photo Reports 2025年10月～12月のコンサートより

2025年秋のマエストロ チョン・ミョンフンとのヨーロッパ・ツアーほか、年末年始にかけて東京でもたくさんのコンサートを開催いたしました。

10月定期演奏会 (10/5、16、20)

撮影=上野隆文

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

ピアノ：小曾根 真*

コンサートマスター：近藤 薫、三浦章宏、依田真宣

バーンスタイン/『ウエスト・サイド物語』よりシンフォニック・ダンス

ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*

【ソリスト・アンコール】小曾根 真/O'berek(10/5)、
小曾根 真/Asian Dream(10/16)、小曾根 真
/Reborn(10/20)プロコフィエフ/バレエ音楽『ロメオとジュリエット』
より【オーケストラ・アンコール】バーンスタイン/『ウエスト・
サイド物語』よりシンフォニック・ダンス～マン
ボ(10/16)、ブラームス/ハンガリー舞曲第1番
(10/20)第40回平日の午後のコンサート(10/8)、
第28回渋谷の午後のコンサート(10/13)
〈なんでもOKストラ!!〉

指揮とお話：円光寺雅彦

ピアノ：清塚信也*

コンサートマスター：三浦章宏

ブラームス/ハンガリー舞曲第1番*

ラヴェル/ピアノ協奏曲*〈ラヴェル生誕150年〉

【ソリスト・アンコール】ラヴェル(清塚信也編曲)/亡
き女王のためのパヴァーヌ(Jazz ver.)(10/8)、
ガーシュウィン(清塚信也編曲)/ラプソディー・イ
ン・ブルー(10/13)

リムスキー=コルサコフ/交響組曲『シェエラザード』



第107回 休日の午後のコンサート〈音楽もの・かたり〉(11/24)

指揮とお話：円光寺雅彦 語り：石丸幹二*
コンサートマスター：三浦章宏

ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲
プロコフィエフ／交響的物語『ピーターと狼』*
ロイド＝ウェバー(カスター編)／
ミュージカル『オペラ座の怪人』セレクション
J. ウィリアムズ／子供のための管弦楽組曲『ハ
リー・ポッターと賢者の石』*



響きの森クラシック・シリーズ Vol.85 (11/29)

撮影＝三浦興一

指揮：小林研一郎
ピアノ：小山実稚恵*
コンサートマスター：依田真宣
ベートーヴェン／
ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
ベートーヴェン／
交響曲第5番『運命』



『第九』特別演奏会 (12/19, 20, 21)

撮影＝上野隆文

指揮：角田鋼亮
ソプラノ：迫田美帆 アルト：中島郁子
テノール：渡辺 康 パリトン：上江隼人
合唱：新国立劇場合唱団
(合唱指揮：水戸博之)
コンサートマスター：三浦章宏

J. ショトラウスII／ワルツ『もろびと手をとり』
(J. ショトラウスII 生誕200年)
ベートーヴェン／交響曲第9番『合唱付』

協賛：ユニアデックス株式会社(12/19)、楽天モバイル株式会社(12/20)、楽天カード株式会社(12/21)



ヨーロッパ・ツアー2025(指揮:名誉音楽監督チョン・ミョンフン)① [プログラムA]編

日程/会場: 10月28日(火)フィルハーモニー・ベルリン 撮影=Evgenia Gapon

10月30日(木)ブダペスト芸術宮殿(Müpa) 撮影=Attila Nagi

11月11日(火)トーンハレ・デュッセルドルフ 撮影=Reinhard Deutsch

指揮:チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ピアノ:小曽根 真*

コンサートマスター:近藤 薫、三浦章宏、依田真宣

バーンスタイン/『ウエスト・サイド物語』よりシンフォニック・ダンス

ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*

プロコフィエフ/バレエ音楽『ロメオとジュリエット』より



フィルハーモニー・ベルリン



ブダペスト芸術宮殿(Müpa)



トーンハレ・デュッセルドルフ

麗春の候、皆様におかれましてはお変わりなくご健勝のこととお慶び申し上げます。
 昨秋のヨーロッパツアーでは皆様の大きなご支援をいただき、
 大成功となりましたこと、心より御礼申し上げます。
 今月は新シーズンの開幕として、イタリア管弦楽の巨匠レスピーギの
 アニバーサリーを飾る「ピアノと管弦楽のためのトッカータ」、
 そして大作作曲家マーラーの最初の交響曲『巨人』をお届けいたします。
 気鋭のピアニストと東京フィルが紡ぎ出すフレッシュな音楽をぜひお楽しみください。
 本年も何卒よろしく願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
 改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 CEO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)III
 代表取締役社長 井手 博

(株)インターテキスト
 代表取締役 海野 裕

(公財)オリックス宮内財団
 代表理事 宮内 義彦

(株)アイエムエス
 取締役会長 前野 武史

ANAホールディングス(株)
 代表取締役社長 芝田 浩二

カシオ計算機(株)
 代表取締役 社長 CEO 高野 晋

(医)相澤内科医院
 理事長 相澤 研一

(株)NHKエンタープライズ
 代表取締役社長 有吉 伸人

キャノン(株)
 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫

アイ・システム(株)
 代表取締役会長 松崎 務

大塚化学(株)
 特別相談役 大塚 雄二郎

(株)グリーンハウス
 代表取締役社長 田沼 千秋

(株)アシックス
 代表取締役社長COO 富永 満之

(株)オーディオテクニカ
 代表取締役社長 松下 和雄

サントリーホールディングス(株)
 代表取締役社長 鳥井 信宏

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)JERA
代表取締役社長CEO兼COO 奥田 久栄

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 CEO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニーミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東京銀座ウェルネス&エイジングクリニック
院長 檜山 和寛

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 齊藤 昌典

DOWAホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
代表取締役社長 斉藤 秀親

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 清水 宣明

(株)明治
代表取締役社長 八尾 文二郎

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニアデックス(株)
代表取締役社長 田中 建

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天モバイル(株)
代表取締役会長 三木谷 浩史

(株)リソー教育グループ
代表取締役社長 天坊 真彦

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 柳井 城作

旭化成ホームズ(株)
代表取締役社長 大和久 裕二

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(株)鈴木
代表取締役 鈴木 信史

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・垂蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)日税ホールディングス
代表取締役会長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長CEO 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
<https://www.tpo.or.jp/support>

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2026年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立115年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは新しいシーズンも、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りましょう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

法人会員	※ 年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリユード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。

その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当：星野^{かのまた} 麗々)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



フランチャイズ・ホール、事業提携ならびに連携協定について

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携、愛知県刈谷市と連携協定を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022年度より東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、2023年度は8校、2024年度は14校の小中学校を訪問しました。2025年度は東北・東海・関東地区の担当として6月から1月にかけて14校の小中学校を訪問しワークショップとオーケストラ公演を開催しております。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチヨン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。



お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時～18時/土日祝休)

10月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

浦上 佳江、加藤 友紀子 (五十音順・敬称略)



特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

Tel: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宣
Masanobu Yoda

アシスタント
コンサートマスター
Assistant concertmaster

坪井 夏美
Natsumi Tsuboi

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榎原 菜若☆
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

小峰 航一◎
Koichi Komine

須田 祥子◎
Sachiko Suda

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	芳野 円香◎ Madoka Yoshino	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	岡村 彩香 Ayaka Okamura	小椋 陽咲 Hisaki Ogura	五箇 正明 Masaaki Goka	塚本 由香 Yuka Tsukamoto
高麗 正史☆ Masashi Korai	小栗 亮太 Ryota Oguri	杉本 真木 Maki Sugimoto	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	柳瀬 茉耶 Maya Yanase
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	佐藤 俊輝 Toshiki Sato	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara		田場 英子 Eiko Taba		ステージマネージャー Stage Managers
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	テューバ Tubas	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	アレクサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		リー・リーリン◎ Li-Ling Lee	西川 優弥 Yuya Nishikawa	荻野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山内 研自 Kenji Yamanouchi		古谷 寛 Hiroshi Furuya
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	鳥潟 さくら Sakura Torigata		ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi		川田 修一◎ Shuichi Kawata	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
		ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	秋田 孝訓 Takanori Akita	
		河野 星◎ Akari Kono	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	杉山 真彦 Masahiko Sugiyama	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	箕輪 綾子 Ayako Minowa	中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		井村 裕美 Hiromi Imura		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori		古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホールなどでの定期演奏会や「午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、テレビ・ラジオ、インターネット等での放送・配信演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、これまでに4回のヨーロッパ・ツアー、創立100周年記念ワールド・ツアー、アジアでは2005年に日中韓3か国、2015年・2025年に東京とソウルの2都市で日韓外交正常化50周年・60周年記念コンサートなど多数開催。近年ではヨーロッパや中東からの招聘を受けるなど、国内外から高い評価と注目を集めている。2025年秋には名誉音楽監督チョン・ミョンフンとのヨーロッパ・ツアーを実施、各地で絶賛を博した。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を、愛知県刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic

In 2026, the Tokyo Philharmonic celebrates its 115th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting the orchestra since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor, and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad. In the autumn of 2025, the orchestra embarked on a major European tour with its Honorary Music Director, Myung-Whun Chung. The tour was met with outstanding acclaim from audiences and critics alike across the continent, further cementing the orchestra's international reputation.

While Tokyo Phil is a frequent recipient of the ACA National Arts Festival Award in Japan, its recordings have been highly acclaimed internationally, winning the "OPUS KLASSIK 2021" award in the symphonic category (20th-21st century).

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano, and Nagaoka City in Niigata, and also cooperation agreement with Kariya City in Aichi.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



東京フィルWEB

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	佐治 信忠
副理事長	大塚 雄二郎		鈴木 啓介
黒柳 徹子	小山田 隆		瀬谷 博道
専務理事	田沼 千秋		
石丸 恭一	玉木 林太郎		
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	塚本 由香	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志	柳瀬 茉耶	沖汐 明日香	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		鹿又 紀乃	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			千木 加寿子	
	佐藤 若菜			二木 憲史	
	村尾 真希子			星野 友子	
	吉田 結衣			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	今野 芳雄	高野 和彦	新田 伸雄	松田 朋子
池田 敏美	小樽 敦子	齊藤 匠	高平 純	二宮 純	水鳥 路
磯部 保彦	小山 智子	坂口 和子	高村 千代子	二宮 祐子	湊 貞男
糸井 正博	甲斐沢 俊昭	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	宮原 真弓
今井 彰	加藤 明広	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	畑中 和子	山本 友宏
井料 和彦	加藤 博文	桜木 弘子	田中 千枝	玻名城 昌子	山屋 房子
岩崎 龍彦	金崎 真由美	笹 翠	田村 武雄	福村 忠雄	吉田 啓義
植木 佳奈	川人 洋二	佐々木 等	津田 好美	藤原 勲	米倉 浩喜
上野 眞行	木村 友博	佐野 恭一	戸坂 恭毅	古野 淳	脇屋 俊介
生方 正好	黒川 正三	清水 真佐子	長池 陽次郎	細川 克己	
大兼久 輝宴	黒沢 誠登	須藤 三千代	長岡 慎	細岡 寛	
大澤 昌生	河野 啓子	瀬尾 勝保	長倉 穰司	本田 詩子	
大和田 皓	近藤 勉	高岩 紀子	新田 清枝	松澤 久美子	

〈発行日〉2026(令和8)年1月23日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

プランチャイズホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪ チケットの座席番号もチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪ 開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

- ・演奏中の許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認を！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

♪ カーテンコールにもマナーあり！？

- ・全てのプログラムの演奏後、指揮者と演奏者がお客様にステージの上でご挨拶いたします(カーテンコール)。カーテンコールでは、お客様からの拍手や声援が音楽家への最大の賛辞となります。スマートフォンや携帯電話での撮影やSNSへの投稿は、他のお客様の感動の妨げにならぬよう、またプライバシーに充分配慮してお楽しみください。なおスマートフォン以外での写真撮影や動画の撮影ならびに前半プログラム終了時での撮影はお断りいたします。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

**Tokyo Philharmonic
Since 1911**

Season 2026-27

